

考えよう。話し合おう。

もし、自分や家族が臓器移植により命が助かるかもしれないとしたら、「臓器移植を受けたい」ですか、それとも「受けたくない」ですか？

もし自分や家族が死に直面したとき、「提供できる臓器をあげたい」ですか、それとも「あげたくない」ですか？

どれも大切な「自分の気持ち」で

す。正解も不正解もありませんが、「あなた」はどうですか？よく考えてみましょう。

また、**本人の気持ち**が分からない**場合は、臓器提供**をするかどうかは残された**家族だけで決めること**になります。**みなさんがどう考えているのか**家族に伝え、**家族とよく話し合っておくことが大切です。**

よく話し合ってみよう



どの気持ちも守られます

「移植医療に関する世論調査」※
(令和3年9月 内閣府大臣官房政府広報室)

あなたは、これまでにご家族や親しい方のうちあなたかと臓器提供について話をしたことがありますか。

話をしたことがある 43.2% **話をしたことがない 56.2%** **わからない 0.6%**



※調査報告書は内閣府ホームページで公表しています。https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-ishoku/index.html

あなたは考えたことがありますか？

みなさんは「死」について考えたことがありますか？

つい、さっさまで元気だった人が、交通事故で死んでしまうかもしれません。何かのきっかけで病気が急に悪くなり、それが死につながってしまふこともあります。

もし、交通事故や病気で死んでしまっても、いくつかの臓器が健康な

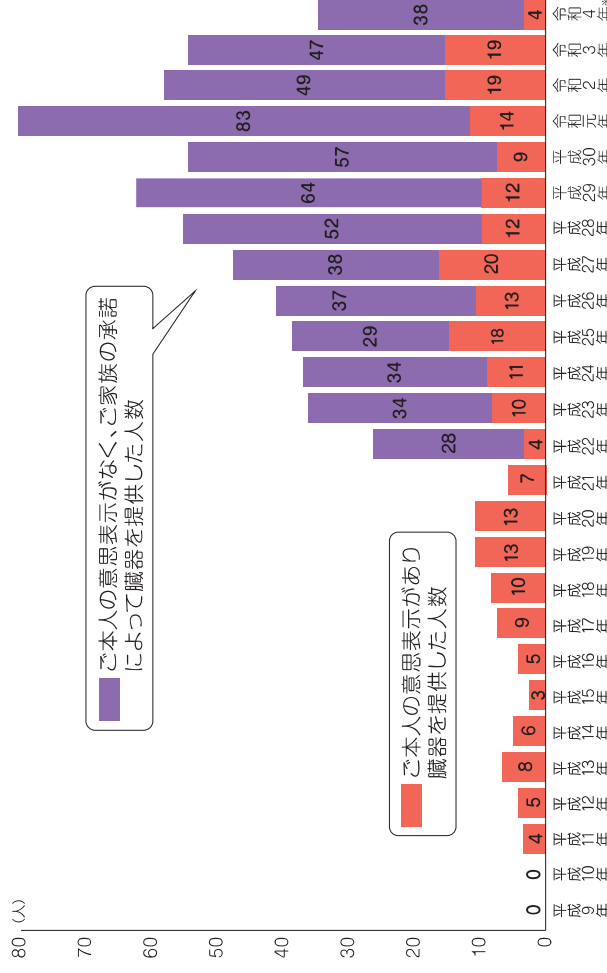
状態だったら？その健康な臓器は、臓器が機能しなくなったために苦しんでいる人、死と向き合っている人に提供することができます。

どんなに健康な人にも、残念ながら寿命があり、いつまでも生き続けることはできません。いつかは「死」がやってきます。

脳死で臓器を提供した方の人数

平成9年10月～令和4年6月
ご本人の意思表示がなく、ご家族の承諾によって臓器を提供した人数
合計838人
590人

平成22年から、本人の意思表示が不明でも、ご家族の判断によって臓器の提供ができるようになりました。



※令和4年6月30日現在